

令和7年度北上市市政座談会

～きたかみまちづくりトーク「WAになって話そう」～in 黒沢尻西

報告書

日時 令和7年8月21日（木） 午後6時から7時30分まで

場所 黒沢尻西地区交流センター

参加者 地域参加者：45名

市出席者：11名 ※事務局等8名

グループトークテーマ

- ①：子どもたちが健やかに育っていく「黒西地区」、どのような環境を思い浮かべますか？
- ②：人生100年時代、年を重ねて自分らしく暮らせる「黒西地区」ってどんなところだと思いますか？
- ③：10年後も子供や孫に残していきたい「黒西地区」の好きなところは？
- ④：地震・豪雨などの自然災害から身を守るために、家庭や地域でできることは何ですか？
- ⑤：協働のまちづくりと市立大学についてどう思いますか？

①グループ

- ・子どもたちの安全について、通学路のカラー舗装実現への取組、スクールガード、見守り活動等について、参加者の体験も踏まえて話があった。人との関わりは子どもたちの育つ環境の中でも重要だと思う、通勤時に活動している地域の方と挨拶を交わして、顔を覚えてもらい、地域とのつながりや安心を大人も感じる、という意見もあった。
- ・子どもと地域が関わる機会がどんどん減ってきていることについて、夏休みを利用した公民館での交流、盆踊りや祭りなど子どもたちが興味を持つイベントの企画、高齢者と一緒にできる外遊びの工夫等、様々なアイデアが出された。
- ・習い事などで地域活動に参加できない子どもたちも増えており、バランスを考えながら居場所をつくっていくこと、子どもたちの意見をしっかりと聞くことが大切であるという思いが共有された。

②グループ

- ・自分らしく暮らすことについて、介護が一番身近な問題なので健康で暮らしたい、地域で支え合うしくみがあると良い、自治会活動や地域との交流が充実している、一人で寂しくなるときは、スクールガードとして子どもたちと交流している、あまり悩まず自然体で生きることが大切だと思う、等の意見が出された。
- ・役職をもって地域と関わるのが健康上良いと感じる、地域のことが分かるようになるので、仕事を辞めたら積極的に地域に関わっていく方が良い、という意見がある一方、いつまでもできることではなく、後継者不足が深刻であるという意見が多く出た。
- ・近所とのコミュニケーションをとりながら地域で支え合うことが大切だという思いが共有された。難しいテーマだが周りや家族でも話し合ってみたい、今後は若い人たちも交えての意見交換を行いたいという感想もあった。

③グループ

- ・残していきたい好きなものとして、小学校周辺やまちなか、詩歌文学館などの風景や、大人と子供がコミュニケーションをとれる環境、転入者を自然と受け入れてくれる雰囲気、地域の歴史や文化、行事等が挙げられた。
- ・みちのく芸能まつりと「結」夏まつりが同日に開催され、若い人も多く集まったという話題では、芸能まつりの踊りを見て、当日飛び入り参加してみたいという声があったという情報も伝えられた。
- ・子どもたちにどんなまちが良いかと聞くと、欲しいものを挙げてまちに足し算をしていくが、好きなところを考えて、今あるもののなかでどこを大切にしていくかという視点で考えなければならないとあらためて感じるという意見があった。歴史や文化を子どもたちに引き継いでいくこと、今あるものを大切にしていくことの大切さが共有された。

④-1グループ

- ・災害時の家庭や地域での対策について、食料の確保を行っている、避難場所の確認や家族の集合場所を決めているが子どもたちの危機感が薄い、地区で防災訓練をしているが形だけになりがち、隣近所の助け合いはあるが地域での防災訓練が無い、高齢者や要支援者の避難を地域で支え合えれば良い等、災害対策の現状と課題が挙げられた。
- ・避難所の環境について、ペット同伴ができる避難所への移動、簡易トイレの数、車中泊の対応、満員になったときの避難所の移動等について、体制を整えておくことが重要だという意見が出された。
- ・昨年度の記録的大雨の状況や内水対策などについて、市出席者から説明があった。市民への情報共有の在り方については、正確な情報を早めに共有できるような体制や情報発信をしてほしいという意見があった。

④-2グループ

- ・災害対策として、子どもたちの登下校への不安、体制の整備や必要なことの整理、LINEを活用した連絡体制や誰でも対応できる準備、水平避難や垂直避難の方法について等、自分の地区の現状の問題点や行っている対策等が共有された。他地区の事例を聞いて、地域内で情報を共有するしくみや要支援者をサポートするしくみを自分の地区でもやっていきたいという意見があった。
- ・高齢者の避難について、避難所まで歩くのが大変な方がいたり、声をかけても家にいたいという方がいるので、対策に悩むという意見が出された。
- ・市出席者からは、側溝のしくみについての説明や備蓄品の状況、災害が長く続いた時のために避難を呼びかけていることなどの説明があった。参加者から、ためになる話が聞けたという声もあり、地域の話し合いの際に共有したいという感想があった。

⑤-1 グループ

- ・協働のまちづくりや市立大学の設置について、財政や運営に不安がある、誘致には賛成だが心配事が多い、工科大学設置は理にかなっていると思うし人口減少対策としても意味があるが、費用などが心配、運営がうまくいくか心配がある、大学ができることで若い人が集まり、活気が出るのは良いことだと思う、等の意見があった。大学ができて活気が出るのは良いことだが、運営や財政に心配があるという意見が多く出された。
- ・どんな教授がいるのかなどが、生徒の確保や学校のイメージに大切だと思う、という意見があり、学校のイメージが企業の就職にも関係してくるという話があった。
- ・自分は良い話だと思っていたが、反対意見ばかり聞いていたので同じ地域の人のお話が聞けて良かった、心配している点は共通していることが分かって良かった、みんなが心配していることをきちんと説明して、進めてほしいという感想があった。

⑤-2 グループ

- ・協働のまちづくりや市立大学の設置について、活気のあるまちにしたいと思っているので市立大学はあっても良いのではないかと思う、まちづくりとして大学の設置に賛成している、まちなかから高校が無くなったことがまちの活気の低下につながる要因の一つではないかと思うので、大学構想はまちの中心部にあることが大切だと思う、教育への投資は発展につながると思う、等の意見があった。
- ・大学には地域に関わってほしい、企業誘致のメリットが地域ではあまり感じられないので、地域にもプラスになるしくみ作りをリードしてほしいという話も出された。
- ・資金や人が集まるかという問題も丁寧に説明していく必要があるという意見もあった。また、反対も賛成も意見を押し付けたり、感情論や憶測にならずに話し合っていくことが必要だという話も出た。

⑤-3 グループ

- ・協働のまちづくりや市立大学の設置について、メリットは多く伝えられているが、デメリットやリスク管理が十分に掘り下げられているか不安、専門教育を市立で行うリスクがどこまで検討されているか心配、若者が地元に着定できる機会を増やすことは賛成である、地元で大学があれば経済的負担も減って親も助かる、メリット、デメリット、リスクをどう最小限にするかなどを説明してほしい、などの意見が出された。
- ・大学ができることで、地域コミュニケーションが活性化することを期待している、自治会の役員不足や行事の運営困難が続いているので、学生が地域活動に参加してくれると嬉しいなど、地域との関わりを求める意見もあった。
- ・これからのまちづくりについて、過去の経験ではなく若い人の視点から作っていくことも大切であるという意見があった。

グループトークの様子



**黒沢尻西地区の皆さま
たくさんのご参加ありがとうございました**